

例 會 記 事

大正七年六月八日午後一時半より本校講堂に於て例會を開く本日の講演次の如し。

魚に就て

理學士田中茂穂先生

中等學校物理化學實驗室に就て

理一、四

石山タマ
谷山ラク
松井さつ

米と麥

理二四

片山ふさの
柳澤とき
井田敏子

肝臟デストマ中間主に就て

岩川教授

講 話

魚 に 就 て

理學士 田中茂穂先生

先日の大學の通俗講演會では、日本橋の魚市場にあらはるゝ魚に就て其の總論とも云ふべき事を話したが、今日は其の各論とも云ふべき方面の一部分について、話しようと思ふ。

蒲鉾の材料には六拾二種ある、これを分けて上等と劣等とする、この分け方は時期によつて異ふから、明瞭には云はれぬが上等の材料は四十九種で、劣等の材料は十三種である。今その名前をあげるが其の名前に就いては教科書などは混じて用ひて居るが實際は所によつてその呼び方が違ふ。例へば三崎で「トラザメ」と云ふ魚は東京で「ネコ」と云つて居る *galeocerdo tigrinus* 今は私は東京で普通呼んで居る名前を用ひて話すつもりである。

上等の材料は「ホシザメ」「シロボシ」「メジロ」「ヒラガシラ」「シユモク」「オナガ」「アラザメ」(普通のアラザメがよろし)「カスザメ」「コロザメ」「ギス」「エリ」「マアナ」「ピンナガ」「クロカワ」「シロカワ」「ムツ」「フグ」「キダイ」「イシモチ」「キス」「タナゴ」教科書には「ウミタナゴ」としてあるが普通そう云はぬ「エラ」「ヒラメ」

劣等材料は「ヒゲヅノ」「カラス」「ネコ」「イトマキ」「ギンザメ」「ダラ」「ウルメイワシ」等である。

各論 鮫の類は大抵蒲鉾にするか、中には蒲鉾に使へな